



「労働者派遣法改正案の概要」

労働者派遣法改正案は19日の衆院本会議で可決され、参院に送付されました。改正案は過去に2度廃案になりましたが、今国会の会期を大幅に延長する方針で、成立する見通しです。

労働者派遣法改正案の概要 (平成27年9月1日施行)

I 派遣事業の健全化

特定労働者派遣事業(届出制)と一般労働者派遣事業(許可制)の区別を廃止し、全ての労働者派遣事業を許可制とする。



II 派遣労働者の雇用安定とキャリアアップ

- ① 派遣労働者に対する計画的な教育訓練や、希望者へのキャリア・コンサルティングを派遣元に義務付け
- ② 派遣期間終了時の派遣労働者の雇用安定措置を派遣元に義務付け

雇用安定措置(3年経過時は義務、1年以上3年未満は努力義務)とは、

- ① 派遣先への直接雇用の依頼
- ② 新たな派遣先の提供
- ③ 派遣元での無期雇用
- ④ その他安定した雇用の継続を図るために必要な措置

III 労働者派遣の位置付けの明確化

厚生労働大臣は労働者派遣法の運用に当たり、派遣就業が臨時的・一時的なものであることを原則とするとの考え方を考慮する。

IV より分かりやすい派遣期間規制への見直し

現行制度では、専門業務等のいわゆる「26業務」には期間制限がかからず、その他の業務には最長3年の期間制限がかかるが、分かりやすい制度とするため、これを廃止し、新たに以下の制度を設ける。

事業所単位の期間制限	個人単位の期間制限
派遣先の同一の事業所における派遣労働者の受入れは3年を上限とする。 それを超えて受け入れるためには過半数労働組合等からの意見聴取が必要 意見があった場合には対応方針等の説明義務を課す。	派遣先の同一の組織単位(課)における同一の派遣労働者の受入れは3年を上限とする。

V 派遣労働者の均衡待遇の強化

派遣元と派遣先双方において、派遣労働者と派遣先の労働者の均衡待遇確保のための措置を強化する。

VI 検討規定

施行3年後の見直し検討に加え、

- ① 正社員と派遣労働者の数の動向等を踏まえ、能力の有効発揮と雇用安定に資する雇用慣行が損なわれるおそれがある場合は速やかに検討を行う。
- ② 均等・均衡待遇の確保の在り方を検討するため調査研究その他の必要な措置を講ずる。

さてさて、如何でしょうか？

派遣元事業所にかなりの負担をかけているものの、雇用安定措置への違反には、許可の取消を含めているが厳しく指導するだけである。

改正法が成立すれば、施行は9月1日、待った無しです。